

人生の主役は私

LETS (リビング・エディターズ・
トレーニング・システム) 監修

転機を迎えた
“彼女”“彼”の
葛藤と選択を軽やかにつづる

エッセイ&
インタビュー集



100人の女性が
話した、書いた

2001~08



夢をかなえたい女性を応援する 「起業家支援企画」

2001年～04年、首都圏と近畿で実施したサンケイリビング新聞社「女性起業家支援キャンペーン」は、05年からリビングネットワーク各社が参加、大和証券グループと共催の「フジサンケイ女性起業家支援プロジェクト」としてセミナーやコンテストを全国展開した。06年の応募は1161人。創刊30周年となった01年6月2日号の紙面には、「夢をかなえたいという気持ちがほんの少し強かった普通の女性」と題し3人の女性起業家が登場。読者に「私もできる」と思わせた。

媒体の信用性と 力に期待して

「事業立ち上げ時に主婦だからと、融資を断られた話を多数聞いていた。リビングだからこそ女性や地域社会に役立つ事業を応援したいと思った」と新山明子（現リビングむさしの編集長）は語る。「女性起業家支援基金」を提案した一人だ。

全国商工会議所女性会連合会の「女性起業家大賞」に先立つこと1年。2001年の



「働く女性みんなを応援したい」と話す橋田さん

1回目には、首都圏・近畿から409人が応募。飯本亜里さんが最優秀賞に選ばれた。今以上に法律や医療の専門家の敷居が高かった時代。家族や生き方という広範囲に及ぶ相談をワンストップで聞き、解決手段を提供したいと考え、「ファイナンスクリニック」をスタートさせていた。「広報の必要性を感じて応募しました。受賞後は新聞社でリリースしてもらえたおかげで、女性たちが日ごとに相談にいらっしやう」と話す。飯本さんは11年の東日本大震災の後、「エイジング社会研究センター(CSAS)」を立ち上げて活動している。04年受賞者の橋田佳音利さんは、「35歳が壁」という時代にミドルエイジの再就職を支援する「フラジュテリー」

を創立。女性を再研修するかわら、企業にはミドルエイジの優秀さを伝えてきた。現在は女性の転職や活動を、主にカウンセリングで支援している。「まさに人生が変わった」と元氣な声で語るのは、出版とセミナー事業で全国を巡っている「ペンコム」の増田ゆきみさん。「女性起業家を支援する制度やコンテストが盛んなときでしたが、リビング新聞の賞であれば信用性が高く、PRもしっかりしてもらえらう」と考え08年に応募。「明確な事業計画がないまま起業していたので、審査員からの質疑応答を通じて、客観的に事業プランのブラッシュアップができた」と振り返る。受賞は逃したが得たものは大きい。

00～04年の出来事&流行

- ▼00 2000年問題（西暦2000年になると、「コンピューターが誤作動するとされた」の発生が注目されたが、大きな問題は起きず。
- ▼01 9月11日、アメリカ同時多発テロ。
- ▼02 初の日朝首脳会談。拉致被害者5人が帰国。
- ▼02 サッカーW杯を日韓共同で開催。「ベッカム様」フィーバーが起こる。
- ▼03 地上デジタルテレビ放送が東京、大阪、名古屋で開始。
- ▼04 綿矢りさ著「蹴りたい背中」、金原ひとみ著「蛇にピアス」が芥川賞。19歳と20歳の女性作家が同時受賞。
- ▼04 アテネ五輪で競泳・北島康介、体操団体など金メダル。北島の「チヨウ気持いい」や、体操の実況中継で「栄光への架け橋」と名言。

LETS受講生&修了生が企画・取材・執筆・編集を担当

- 第1章：インタビュー「未来を築く女性たち」
- 第2章：公募エッセイ「私の転機」受賞作・入選作
- 第3章：アンケート「女性の仕事と暮らし」
- 第4章：雇われない働き方——多才で多彩な女性たち
- 第5章：リビング紙面から見る女性応援史